

準備委員会企画シンポジウム

縦断的な視点に基づく教授・学習研究

【企画趣旨】

近年の教授・学習研究では、複数時点においてデータの測定を行う、縦断的な研究が多く行われるようになっている。日本教育心理学会の総会で発表される研究を見ても、複数時点でデータの測定を行った研究の数はここ数年で急増しており、縦断的な研究への関心は年々高まっているといえるだろう。

教授・学習研究において、時間軸上に存在する複数のデータを関連づけていく「縦断的な視点」を取り入れることのメリットとしては、変数間の因果関係や、特定の変数の発達的な変化の様相、介入の効果の持続性など、より多様なリサーチクエスチョンを立てられるようになることがあるといえる。また、学習という営みを、時間軸上の一時点での完結するものではなく、様々な経験の蓄積の中で徐々に深まっていくものであると捉えれば家庭学習と授業の接続の問題や、初等教育、中等教育、高等教育の接続の問題も研究の対象として視野に入ってくる。

本シンポジウムでは、縦断的な視点にもとづきながら研究を行った3名の話題提供とともに、縦断的な視点の多様性や有効性について理解を深めるとともに、データの測定や結果の解釈における注意点を共有した上で、今後の教授・学習研究の展開可能性について、指定討論の先生およびフロアの方々と議論していきたい。